

平成 30 年度
第 1 回八王子市みどりの基本計画策定検討懇談会

平成 30 年 7 月 27 日(金)
本庁舎議会棟 4 階第 6 委員会室

八王子市環境保全課

平成 30 年度 第 1 回八王子市みどりの基本計画策定検討懇談会出席名簿

出席者	座 長	沼 田 真 也
	委 員	市 古 太 郎
		町 野 いこひ
		大久保 徹
		田 所 喬
		城 所 幸 子
		小 野 弘 人
		竹 下 博 士
		藤 原 啓 二
		米 田 剛 行
		佐々木 直 純 (竹内高広委員 代理出席)
欠席者	委 員	阿 部 伸 太
		志 村 亮 介
事務局職員	環境保全課長	青 木 一 浩
	環境保全課	佐 藤 高 広
		福 士 大 介
		吉 澤 遼
	アジア航測(株)	深 見 幹 朗
		藤 原 真 太 郎

公開・非公開の別

公開 (傍聴人 1 人)

平成30年度第1回八王子市みどりの基本計画策定検討懇談会 次第

日 時 平成30年7月27日(金)

午前9時30分～11時

場 所 八王子市議会棟 第6委員会室

1 開 会

2 参加者紹介

3 座長・副座長選任

4 議 題

(1) 八王子市みどりの基本計画の概要について

(2) 新計画の骨格(方向性)について

(3) その他

5 閉 会

【資料】

- ・八王子市みどりの基本計画について・・・・・・・・・・・・・・・・資料1
- ・新八王子市みどりの基本計画骨格案(方向性)について・・・・資料2
- ・八王子市みどりの基本計画策定検討懇談会参加者表・・・・・・資料3
- ・策定スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料4
- ・八王子市みどりの基本計画策定検討懇談会開催要綱・・・・・・資料5

1. 開会

事務局 昨年度から庁内会議を開催してきた。緑の質の向上と市民協働の促進が大きな柱。維持管理や高齢化などが課題である。管理者不足に起因する負のスパイラルを、緑の機能の向上、協働につながる好循環に転換させていきたい。分かりやすく、実効性のある計画にしていきたいと考えている。

2. 参加者紹介

・各委員による自己紹介。

3. 座長・副座長選任

・会長に沼田委員、副会長に阿部委員が選出された。全員異議なし

座長 座長を拝命した。精一杯頑張りたい。都市の自然のあるべき姿を考え、この懇談会がより良いものになるよう、積極的に貢献したい。ぜひ、この場を活かして実りあるものにしていきたい。委員の皆様においては、意見を出すだけでなく、あるべき姿が良くなるように一緒に知恵を出し合い、協力することが不可欠である。よろしくをお願いします。

4. 議題

(1)八王子市みどりの基本計画の概要について

事務局 八王子市みどりの基本計画の概要について説明

■質疑応答

座長 緑の基本計画の政策的な位置づけと、計画で扱う緑の種類について説明を受けた。公園や斜面緑地、生産緑地に加えて、八王子市の人口など社会状況を考慮することが改定のポイントになるだろう。質問はあるか。

委員 緑地と公園が計画の柱になると考える。都市計画の基本構想では公園を新設することについて議論されているが、本計画では基本構想を踏襲するのか。それとも、本計画の中でも独自に公園の新設を含めた議論を行うのか。

事務局 緑の基本計画の中で公園の検討は外せないと考えている。現計画では特に公園の扱いが薄かったことが課題であり、庁内の公園課が問題意識を持っている。公園も一緒になって計画の中で扱っていきたい。

座長 仮に、この懇談会で公園を「増やすべきである」という結論に達した場合、増やすことも計画に含めるのか。

事務局 最終的には公園を所管する公園課での検討になる。なお、市内にはそれなりの数の公園がある。しかし、開発の附置義務でできた公園が多いので、今後はそれらの扱いを検討していくことになる。財政事情もよくないので、単純に増やすべきかどうかは検討が必要である。市内の公園の配置計画だけでなく、取扱いについては、改めて、事務局側から情報を提供した上で議論をお願いしたいと考えている。

座 長 新設については、議論・検討する可能性があるという理解した。

座 長 現状では、市民一人あたりの公園面積が増加しているが、原因は何か。市民一人あたりの公園面積は、人口が減少することでも増加する。

事務局 面積の増加は、公園の数が増えたことによるものである。

委 員 例えば、宇津貫緑地は、八王子の動植物の保護のために公園課が管理している。全 16ha 中の 6ha は一般に開放されているが、残り 10ha は保全のために管理者以外の立ち入りが禁止されている。単なる住宅地の中の小さい公園の他に、宇津貫緑地のように多摩丘陵の一部として残っている緑地公園もある。そのような公園があることも前提として理解しておくとうい。

座 長 様々な種類の公園があるということを入念に入れておくことは、議論を行う上で大切である。

(2) 新計画の骨格(方向性)について

事務局 新計画の骨格(方向性)について説明

■ 質疑応答

委 員 市内には約 900 か所の都市公園があるが、前提として、都市公園の所管部署(所有者)と管理者の意識を向上させることが不可欠である。市民が、緑が大切だと思って意識を高めたとしても、利活用される側の意識も高めないとうまくいかないだろう。

公園の利活用は、現状の公園をどうするかという発想が必要である。これまでは、ニュータウン開発で沢山作られた、ブランコや滑り台のある一様な公園が維持管理されてきたが、住民の多様化が進んでいる今の社会では、一様な公園は使われなくなっていると感じている。例えばガーデニングをテーマにした公園など、色々な発想で市民と一緒に都市公園を整備していくことが求められているのではないかと。

長池公園では、「生きがい就労」として、定年後の 60~80 歳代までの方々を有償で臨時雇用して、ベンチ修理などの軽作業を手伝ってもらっている。今後は、地域の人と公園との関わりがもっと増えてくるだろう。団塊の世代の方々が仕事を終えて地域に戻ってくるときに、地域の人材として必要になる。そのような方々に地域の緑のためにどのように活躍してもらうか、社会的にも経済的にも意義がある取組である。

座 長 人の連携に注目すべきというのは大事な意見である。「質」の向上は整備だけではない。委員のみなさんのバックグラウンドに基づいて色々提案していただきたい。この点については、次回以降、具体的な形で議論したいと考えている。

委 員 先程の意見に同感である。公園の数(量)はあるのに、最近、近所の公園で遊んでいる子供を見かけることがない。利用されているかどうか重要な視点である。管理者目線とは反対に、市民目線として利用率などを評価尺度に採用してもよいのではないかと。

座 長 公園の利用者はそれぞれに目的が異なっている。例えば、高齢者はコミュニケーション、親は子供の教育、子供は遊びなど、それぞれに目的をもって公園を利用している。利用率を採用することは難しいかもしれないが、検討のために知恵が必要だ。

委 員 公園に子供がいないのはそのとおりだと思う。一方で、人が集まっている公園には必ず緑があり、心地よい環境がある。子供たちを中心とした活動を考える場合、公園に緑と木々と草原があれば、他には何もなくてもよいと思う。

地区別に方針や施策を検討するとのことであったが、その受け皿である市民会議は高齢化が進み、人が減ってきている。市民会議に計画を諮ることは、負担が大きく無理があるのではないか。また、市民会議の存在を知らない人も多く、市民に浸透していない組織である。現計画の地域別行動方針以上の内容を新計画に盛り込めるのか疑問である。

座 長 市民会議の高齢化が進んでいることは確かである。
一方、委員の皆様には、現状を述べるだけでなく、だからこうしていきたいという、将来、例えば 30 年後、につながる視点での議論をお願いしたい。

座 長 現計画は将来ビジョンが分かりにくいと考えている。計画によって緑の価値を高め、緑の価値を高めることで八王子市の価値を高めることを目指していく。その点については、全体の合意をお願いしたい。

(3)その他

事務局 本日述べられなかった意見や質問については、メール又は意見記入シートに記載をお願いしたい。次回の懇談会は10月を予定している。日程はメールで事前に調整させていただく。

以上
午前 11 時 00 分 閉会